

株式会社 みすず総合 コンサルタント

会社概要

本 社 長野県上田市上田原 1073 - 4

設 立 昭和 49 年 1 月 10 日

代表者 増沢 延男

従業員 49 名

登 録 測量業

地質調査業

一級建築士事務所

建設コンサルタント

補償コンサルタント

土壤汚染指定調査機関

U R L <http://www.e-misuzu.com/>



弊社は昭和 50 年にみすず測量設計株式会社としてスタートし、地域に必要とされる企業になることを目標に、平成 8 年に現社名である、みすず総合コンサルタントに変更しました。

近年では、土木業界においても空間情報の利活用が急速に進むことが想定されることから、1998 年に空間事業部を立ち上げ、各種データ管理に GIS (Geographic Information System) を用い、行政機関へ導入して参りました。また多種多様なデータを扱う企業責任として、土木建築サービス業として最初のプライバシーマークの認定を受け、平成 22 年に 5 回目の更新を終え、これまで培った計測技術に加え、3 次元計測・解析技術の利用により、より迅速で、且つきめ細かなサービスをモットーに事業を展開しております。



■事業分野■

弊社は、測量業を主力事業しておりますが、建設コンサルタント事業、補償コンサルタント事業、地質コンサルタント事業のほか、プライバシーマークの取得支援を柱とした企業コンサルタント事業や 3 次元レーザー計測をはじめとした新規計測事業を行っております。

特に、2004 年より開始した 3 次元計測事業は、新潟県中越地震被災調査団への技術協力をはじめとした学術機関とのコラボレーションなど、人が立ち入ることのできない災害現場などで、遠隔地から計測を行い、その後の防災対策に活用されており、地域貢献・社会貢献を念頭において事業を実施しております。



3次元レーザー計測機



取得・解析データ

■これからの取り組み■

弊社では、「挑戦」と「付加価値」をキーワードに事業を展開しております。

「挑戦」とは自分への挑戦から会社での挑戦、企業間での挑戦、新分野への挑戦、顧客満足における他社との差別化等における様々な「挑戦」をイメージしています。

また、「付加価値」とは各種業務ごとに創意工夫を凝らし、一つの考えに固執することなく、保有する技術・知識を持ち寄り、本来の目的以外の価値を生み出せるよう最高のサービスを提供することであると考えています。初心を忘れず、常に謙虚であり、常に勤勉であり、常に感謝の気持ちを忘れず行動します。そして、お客様はじめ社員、地域、家庭において喜んでもらえる企業人を目指します。

創業 36 年の実績をさらに高め、自社の強みを再認識し、変化に対応できる社員と会社を目指して邁進します。今後とも、皆様方のご指導、ご支援をお願い申し上げます。



株式会社 中央ジオマチックス

会社概要

本社 東京都板橋区舟渡 3-15-22

創立 昭和 21 年 4 月 1 日

代表者 田中 尚行

従業員 50 名

URL <http://www.chuogeomatics.jp/>

当社は、昭和 21 年 4 月に中央地図研究所としてスタートしました。昭和 33 年 9 月 25 日に中央地図株式会社を設立し、地図調製における編集・製図から印刷までの一貫作業体制を確立し、国および地方公共団体などの官公庁が利用する地図の作成業務に携わってきました。現在あらゆる地図の製造を製図から製版、印刷まで一貫して行っています。

また、平成 14 年 11 月 1 日には地図のデジタル化、GIS システムの開発など業務内容の多様化に伴い社名を株式会社 中央ジオマチックスに変更し、時代の要請に対応して積極的に取り組んでいます。

【ジオマチックスとは】

ジオマチックス (Geomatics) とは、国土空間データの取得、格納、処理、分析、表示を扱う科学をいい、日本語では「空間情報科学」と訳されます。

地図、測量、写真測量、リモートセンシング、地理情報システム (GIS)、GPS などを包括した科学分野です。

【業務概要】

地図調製が事業の柱です。官公庁から民間企業まで幅広いユーザへ、アナログからデジタルまで空間情報を提供するさまざまなサービスを行っています。具体的には公図、関連する各種主題図、調査からデータ作成、GIS に関連したシステム開発やソフト販売まで、積極的に事業に取り入れています。



【近年の地図調製業】

地図作りのデジタル化、近年の技術革新によって、いわゆる商業印刷と地図印刷の違いがはっきりしない時代になってきました。さらに地図に求められる価値も変わりつつあります。作り手として当然と思っていた精度や表現手法へのこだわりが、必ずしも顧客に求められていない場合があるといったことです。

こうした変化の激しい社会情勢の中で、地図調製を生業としている会社はどうあるべきか、印刷会社との明確な違いを打ち出せるよう、プライドをもって業務に取り組みます。

株式会社ニコン・トリムブル

会社概要

本社 東京都大田区南蒲田2-16-2 テクノポート
三井生命ビル

設立 2003（平成15）年7月

代表者 代表取締役社長兼CEO 丹澤 孝

社員 約210名

URL <http://www.nikon-trimble.co.jp/>

沿革

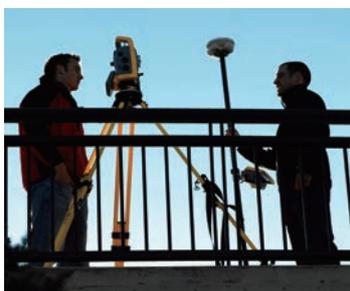
当社は、トップレベルの光学設計技術を持つ株式会社ニコンと民生GPS受信機のパイオニアである米国トリムブルナビゲーション社の合弁会社として、2003年7月にスタートしました。設立以来、当社および関連会社が長年にわたり培ってきた技術とノウハウを生かし、光学・GNSS測量機器をはじめとした地理空間情報分野の生産性を向上する様々な製品とサービスを提供しています。

また、高品質の測量機をご提供するための一環として、当社の蔵王工場では高度熟練技能認定（機械では代替できない優れた熟練技能）の取得技能者が、高精度部品加工をサポートし、厳格な品質基準のもとに組立から検査までを行っています。

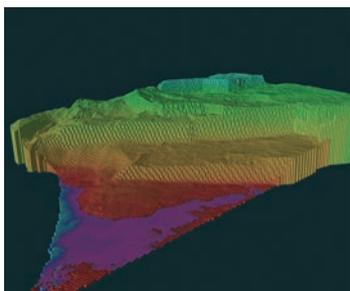
当社の取り組み

最近では、情報化施工に代表されるように、測量・建設分野における業務効率化のニーズが高まっています。当社では、調査・設計から、施工成果出力までの個々の

作業プロセスの効率化を図る製品やサービスの提供と同時に、一連の作業工程をトータルにサポートするソリューションを提供することで、お客様の生産性向上に貢献できると考え、トータルステーションとGNSS測量機のインターフェースの共通化や前処理・後処理ソフトま



インテグレートサービス（統合型測量）



後処理解析ソフトウェア

での自社提供に取り組んでいます。また、省力化・省コスト化のニーズが高い農業分野では、設置も操作も簡単で導入しやすい高精度GPSガイダンスシステムをご提案し、すでに多くのお客様に導入していただいています。

新しい事業分野

2007年の地理空間情報活用基本推進法の施行に、時刻情報と位置情報を様々な情報と関連付けた「地理空間情報」の利活用が業界を超えて大きく広がり、新しい製品やビジネスが次々と生まれています。当社では、ライフラインや構造物の維持管理、環境保全、災害対策分野などでのGISデータ収集を効率化するハンディGNSSシステムをはじめ、高精度の点群データを一度に収集できる最先端の移動体空間計測システムや航空測量システムを導入し、お客様にご提案しています。

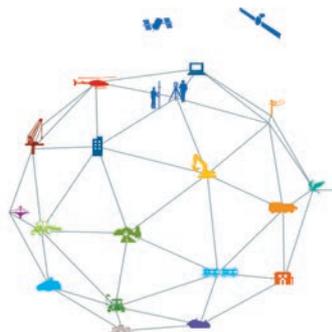


ハンディGISシステム



モバイル空間データ計測システム

今後、地理空間情報を活用する分野は、技術革新によりさらに高度化していくことが見込まれます。社員一人一人が知識と技術を高め、社会の変化とニーズをいち早く察知し、新しい技術や製品の開発・導入に積極的に取り組むことで、常にお客様の生産性向上に貢献する最適なソリューションをご提案できるように努めてまいります。



東京農業大学

造園科学科

准教授 國井 洋一

東京農業大学は、世田谷キャンパス、厚木キャンパス、オホーツクキャンパス（網走市）の3キャンパスで構成されており、造園科学科が所属する地域環境科学部は、世田谷キャンパスを本拠地としている（図1）。世田谷キャンパスは都内のキャンパスとしては比較的緑が多く、特にメタセコイアが多く茂る中庭は、学生や教職員だけでなく、地域住民の方にとっても憩いの場となっている（図2）。

造園科学科は、関東大震災翌年の1924年に東京高等造園学校として創立し、その後合併により東京農業大学の一学科となった。造園学は、都市空間から農山村地域までの広範囲において、人と自然が共存できる環境をデザインし実現することを目的としており、学問としては科学・技術・芸術を融合した体系となっている。また、対象となる空間を創成することが主な目的となるため、植物等の造園材料に対する知識や、空間構成のための手法や技術を学ぶこととなる。具体的には、自然

環境回復、特殊環境地の緑化技術、造園資材や施設の開発や生産など、環境創成に関わる各分野の科学的な教育を実施している。造園科学科ではこのような総合学を以下の3つの分野として捉え、それぞれ専門的な教育を行っている。

「ランドスケープ資源・植物分野」：植物、植生そして自然を科学し、樹木や草花の植栽に関する技術の理論と実際を扱う。

「環境計画・設計分野」：各種空間の創生・保全・利用に向けて計画科学とデザイン面からアプローチし、その理論と実際を扱う。

「景観建設・技術分野」：造園空間を実現するエンジニアリングの理論と材料・施工の実際を扱う。

上記の3分野には、計12研究室が配置されており、それぞれの研究室には計22名の常勤教員が所属し、専門分野の教育および研究に携わっている。

3分野の中でも筆者が所属する「景観建設・技術



図1 東京農業大学世田谷キャンパス正門



図2 メタセコイアの中庭

分野」は、幅広い造園学の中でも特に工学的な要素が強く、主に土木や建設技術を扱うため、測量の技術や知識を必要とする分野である。授業においては、樹木帯の平面図を平板測量で作成したり（図3）、舗装工の実習にて水準測量や角測量を習得させたりするなど（図4）、測量の技術を実践的に学ぶ「実学主義」を重視したカリキュラムが多いことが特徴である。一方の研究面においては、造園施設材料、建設マネジメント、景観工学などをキーワードとし、造園に関わる工学的な側面を分野全体で幅広くカバーしている。測量や空間情報技術に特化すると、地上型レーザスキャナによる日本庭園の現況把握（図5）、CGによる植物の成長シミュレーション（図6）、横浜開港当時の日本大通りの景観再現（図7）等のテーマに取り組んでいる。

造園科学科の卒業生は、環境行政や緑化行政担当の技術者、自然保全や緑化コンサルタントの技術者、環境計画コンサルタント、ランドスケープデザイナーなど、造園に関わる多方面にて活躍している。また、当学科はJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定も受けており、今後も造園技術者や土木技術者となり得る人材を多く輩出し、社会に貢献することを責務として担っている。



図3 樹木帯の平板測量



図5 地上型LSによる日本庭園の計測



図6 植物の生育シミュレーション
(左からキキョウ、ススキ、チガヤ)



図4 舗装工の実習



図7 日本大通りの景観再現